



ぬま健司事務所

(事務所) 古賀市千鳥2-3-7 安部ビル103
電話/FAX: 092 (944) 2639

(議会事務局) 古賀市 駅東1-1-1
電話: 092 (942) 1134
FAX: 092 (942) 1160

(自宅) 古賀市 花見東5-4-10
電話/FAX: 092 (943) 4427
電子メール: ny2k-nm@asahi-net.or.jp

シンクタンクをめざしています!

- ◎「最新の情報発信」
- ◎「長年の経験・情報の蓄積・継承」
- ◎今後の古賀市や地方自治体の政策づくりに貢献

私のモットー
情報は民主主義の
ビタミン剤

式典や総会
イベント等
で380回
の挨拶(6月
15日現在)
毎回心を込
めて行って
きました。



Facebookを利用しています!
ホームページもご覧ください
numakenji.jimdo.com/

議長に就任して3年 インターネット中継と議会基本条例が誕生

2011年5月
議長就任

議長としての所信表明

マスタープランに議会提言

2012年5月

インターネット中継・
録画スタート

議会会議規則の全面改正
発言通告制、補正付託等を導入

2013年5月

議会基本条例を制定

議場に大型モニター設置

議会基本条例を施行

2014年5月

押しボタン表決を導入

初の議会報告会を開催

集団的自衛権容認の閣議決定(7月1日)
10人の議員で抗議の緊急アピール



7月2日、古賀市議の有志10人で、安倍内閣による集団的自衛権行使容認の閣議決定に抗議する緊急アピールを発表。平和の国の進路と民主主義を守るために、連帯の輪を広げ、粘り強く頑張ります。

古賀市議 ぬま健司のニュースレター

HP numakenji.jimdo.com/ / facebookでもニュースを発信!



古賀市議会 議長
奴間 健司

ハイライト:

- 6月定例議会を開催中
- 7月18日、19日、20日に初の議会報告会
- 「暮らしの保健室」の視察報告

6月定例議会 初のボタン採決と自由討議



ボタン採決を初めて導入(古賀市議会議場・6月12日)

古賀市議会は6月25日に定例会議を閉会しました。今回初めてボタン採決や総務委員会での自由討議が行われました。本会議の様子はインターネット会議の録画をご覧ください。開かれた活発な議会となるよう頑張ります。

第1回議会報告会にお越しください!

古賀市議会として初の議会報告会を以下のとおり開催します。お気軽にお越しください。
7月18日(金) 千鳥苑・大広間 午後7時
7月19日(土) 谷山公民館 午後7時
7月20日(日) リーパスプラザ大会議室 午後7時
議員が3班に分かれて各会場の運営に当たります。私は3会場とも出席しあいさつをいたします。

目次:

- 「暮らしの保健室」の視察報告 2
- 花見東2区公民館の取り組み 3
- 議長に就任して3年 集団的自衛権 閣議決定に抗議 4

古賀市議会の改革度九州沖縄で第4位 日経新聞調査

6月17日の日経新聞は基本条例やインターネット中継など議会改革度欄吟具を発表。古賀市議会は九州・沖縄で第4位、全国で第46位と高い評価をいただきました。前年は340位でしたので大躍進です。これを弾みにさらに頑張ります。

視察報告

「暮らしの保健室」(東京・戸山ハイツ)を視察

5月29日、東京都新宿区・戸山ハイツにある「暮らしの保健室」を視察してきました。室長の秋山正子さんとボランティアの方から詳しく説明をお聞きしました。

戸山ハイツは高度経済成長の時に建設され3300世帯。高齢化率は今や50%となっています。

「暮らしの保健室」は、2011年7月に「ケアーズ白十字訪問看護ステーション」が開設しました。

秋山正子室長は20年にわたって在宅医療・在宅ケアを担って来ました。一人暮らしが増え、どこに相談していいかわからず孤立している方が増加している現実と直面。

厚生労働省の「在宅医療連携拠点モデル事業」の指定を受け、無料で健康相談に乗ったり、専門職同士をつないだり、在宅の不安を埋める取り組みを続けています。

「暮らしの保健室」は、お茶を飲みながらゆったり過ごせる空間になっています。そこでは、在宅で家族を看取った経験のあるボランティアさんが、健康や生活に関わる様々な相談に耳を傾けます。

そして医療、介護、生活面で看護師、栄養士そして給付金アドバイザーが専門的な相談支援を行っています。

この日はNHKが密着取材をしていました。今年9月にNHKスペシャルで「暮らしの保健室」を紹介するとのことでした。

超高齢化社会を迎える中、医療や介護、福祉のはざまに困っている方の相談に乗る「暮らしの保健室」は全国どこでも必要になると感じました。

秋山正子さんはイギリスのがん患者のための施設「マギーズセンター」が日本でも必要と考えています。相談支援の新しい在り方です。

「病院だけが療養の場ではない。在宅療養の方が経過が良いケースもある。もっと多くの人に知ってほしい」と秋山さんは述べています。

「暮らしの保健室」は高層団地の1階にあります。本屋さんが撤退したあとを借りて開設。入り口で秋山正子所長と記念写真を撮りました。



ガン患者さんのレシピ集を発行した管理栄養士の川口美喜子さんがお料理を作っていました。たいへん美味しそうでした。

東京医大付属看護学校の学生が在宅看護の実習に来ていました。



「暮らしの保健室」には家族を自宅で看取った方がボランティアで活動。患者、家族の気持ちがかかるだけに、心のこもった相談支援になっています。



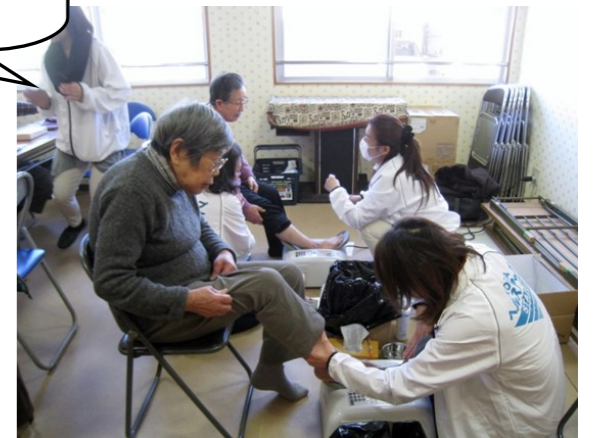
実践報告

「暮らしの保健室」を参考にした古賀市での取り組み

古賀市・花見東2区公民館では、第2、第4木曜日の午前11時から午後3時まで「木よう館」を開設。50円のお茶代で自由にくつろげる喫茶コーナーです。



その「木よう館」に古賀市の保健師やヘルスマイトさんに来てもらいました。血圧や骨密度を測定し、気軽に健康相談に乗りました。



古賀市の高齢化率は21%。しかし地域によっては30%、40%のところもあります。地域に根差した高齢者対策は緊急課題です。

花見東2区のような取り組みはすでにいくつかの地域でも実践されています。古賀市内46行政区すべてに広げたいところです。



古賀市は2014年度から「ヘルス・ステーション」という名称で公民館単位の健康づくりに着手。校区担当の保健師、管理栄養士などのチームを編成しています。



「木よう館」の参加者から交通手段がなく買い物が不便との声を聞きました。そこでグリーンパークの物産館から野菜や果物、生花の移動販売に来てもらいました。大好評で、6月から月2回実施します。

5月には、古賀市内にある福岡女学院看護大学で保健師をめざす学生が来てくれました。聞き取りとアンケートで地域診断を試みる学習。若い来客に参加者は大喜びで、公民館には素敵な笑顔があふれていました。

